様式3

学 校 番 号 22

令和4年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立八幡中央高等学校　定時制課程

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）

学校運営方針	本校のスクールミッションに基づき、スクールポリシーを踏まえた教育実践により、豊かな人間性を身につけ、自己の力で未来を切り拓き、地域や社会に広く信頼され、貢献できる生徒を育成する。		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
昨年度も新型コロナウイルス感染症により教育計画の変更が必要となったが、指導内容や学校行事の工夫、生徒への個別対応に努めることで一定の目標は達成できた。定時制に進学する生徒は、個別の教育支援を必要とする場合が多く、その数は年々増加している。家庭状況や学習状況、発達段階などを踏まえ、外部との連携や教員間の密な情報共有、職員研修を行い、就学保障及び進路保障の充実を目指す。	1.「主体的、対話的で深い学び」の充実	基礎基本からの学び直しを通じて学習への意欲を喚起し、協働的な活動から思考を深める「主体的、対話的で深い学び」の充実を図る。	A
	2. 積極的な個別の教育的支援	カウンセリングマインドを身につけた教職員が、生徒個別の教育的支援を積極的に行い、最大限の就学保障に取り組む。	
	3. 安心できる「学び」の環境づくり	多様性を認め、自他を尊重し、いじめや差別のない安心して学ぶことができる教育環境をつくる取組を促進する。	
	4. 豊かな人間性を育む取組	生徒主体の学校行事や、各種活動に積極的に参加させ、自己存在感・自己肯定感・共感的人間関係を育成する。	
	5. 夢と志の実現への支援	発達段階に応じたキャリア教育を行い、主体的な進路選択・決定を支援し、社会参加への意識を高める指導を行う。	
	6. 学校力の向上	地域や外部団体との連携による「社会に開かれた学校づくり」、校内外職員研修の充実、不祥事の根絶などを推進する。	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務	授業規律を確立し、学習効果のある授業を目指す。	教材の準備、机上の整理を徹底させ、授業に集中できる教室環境整備に努める。	A	A	B	新型コロナウイルス感染症による学校行事への影響はなかったが、発熱等による生徒の出席停止の状況は依然生じた。今後も感染状況や通知等に留意し生徒の安全な学校生活に配慮する。
		出席や成績の状況等に係る保護者との連絡を行い、連携して就学・修学に努める。	A			
	基礎・基本の学力を定着させるとともに、生徒のニーズに応じた学力の伸長を図る。	授業の内容・方法を工夫し、生徒の実態に応じた授業づくりに努める。	A	B		新教育課程の実施と観点別学習状況の評価が始まったが、授業改善や適切な学習評価についての課題が生じた。来年度はこれらの課題解決のため教務に係る環境整備に取り組む。
		すべての授業で、生徒が主体的に探究できるような授業づくりを目指す。	B			
生徒指導	基本的生活習慣の確立を目指した生徒指導に心がけ、安心して楽しく学べる学習環境を整備する。	校内巡回時の声かけや挨拶等を通じて、生徒と教職員の相互理解に努める。	B	B	A	生徒へのきめ細かな声かけ等を通して生徒理解に努めていく。特に、新入学の生徒に対する良好な人間関係作りを全教職員で取り組んでいくようにする。
		職員間の情報共有を密に行い、いじめや差別を許さない環境づくりに努める。	A			
	生徒会活動を通して学校行事の企画力を育成するとともに、豊かな人間性の涵養を目指す。	生徒会執行部生徒の自主性を育成し、適切なアドバイスに心がける。	A	A		今年度に引き続き、学校行事の活性化を通して、生徒一人一人の自尊感情の向上を目指していく。
		学校行事の活性化を通して生徒の自尊意識の向上を目指す。	A			
進路指導	生徒の進路実現に向けた意識の向上を図り、主体的な自己実現力を育成する。	資格試験の受験を促すとともに、受験生の合格率を高める。	A	A	A	多様な分野からの進路講演会や生徒のニーズに応じた進路ガイダンス等を企画・運営していく。また、応募前職場見学を進め、生徒の進路意識をより一層高めていく。
		生徒の情報交換を積極的に行い、外部機関と連携した支援を継続的に行う。	A			
		生徒の発達段階に応じた進路講演会や進路ガイダンスなどを実施する。	A			
	在校生の就業機会を確保・促進する。	アルバイト情報を提供するなどの就業意識を高める取組を継続する。	B	B		職安との報告・連絡・相談を密に行い、生徒の充実した就職活動を支援していく。また、生徒が希望するアルバイトの情報についても提供していく。
		進路学習の履歴となるキャリアパスポートを充実させ、生徒の進路意識を高める。	A			
研修・庶務	充実した研修を実施し、教職員の資質・能力の向上を図る。	本校定時制の実態に沿った研修内容を検討し、企画立案する。	A	A	A	情報・図書部と連携しながらICT支援員による教職員向けICT活用講座を複数回実施した。次年度は生徒理解や学習評価など定時制の実態に応じた多様な研修内容を検討する。
		校外研修の参加案内及び充実した校内研修の企画を推進する。	A			
		校外における研修内容の共有化を図り、定時制全体の教育力向上を目指す。	B			
	教育環境の整備・充実を図る。	全日制・定時制との施設共用を円滑に行い、教育活動の充実を図る。	B	B		昨年度以上に、全日制との連携を円滑に行うことができた。一方で、学校行事の際など、若干の連絡行き違いが生じたため、次年度は更なる連携強化を図りたい。
		奨学金等の分かりやすい案内に努め、就学並びに修学の保障に努める。	A			
情報・図書	ICT機器の活用促進を図る。	電子黒板やChromebookなどのICT機器を効果的に活用するための研修等を行う。	A	A	A	研修部と連携したICT活用講座を実施することで教職員のスキルアップを図ることができた。次年度は実際の活用に繋がる研修の実施を検討する。
		学校ホームページを適宜更新し、積極的な情報発信を行う。	B			
		すべての生徒への連絡手段としてClassroomを活用していく。	A			
	検定資格の取得促進と図書館利用の普及を図る。	各種の検定取得に向けた指導を行う。	A	B		検定の実施時期を年3回に見直す。また、図書購入希望が少ないため、生徒希望調査では選択肢を設けるなど生徒の意見が反映できるような工夫を凝らす。
		様々な検定資格の取得に繋がるような本を図書館の新刊購入時に検討する。	B			
		購入図書希望調査を5月・9月・1月に行うとともに、適宜、新刊案内を行う。	B			
保健	心身の健康に関する指導の充実を図る。	健康診断等を通して、健康を自己管理しようとする態度の育成を図る。	B	B	B	生徒の生活実態等に応じた「ほけんだより」を毎月発刊できるように努め、心身の健康に対する生徒意識を高めていく。
		「ほけんだより」等を定期的に発行し、心身の健康への意識を高める。	B			
	健康相談活動の充実を図る。	生徒の安心・安全につながるよう、積極的な情報交換を行う。	A	A		今年度に引き続き、各分掌やSC等と連携し、生徒の安心・安全な学校生活につながるよう効果的な教育的支援を行っていく。
		SCやSSW等と連携した上で、必要な教育的支援を継続して行う。	B			
		各分掌と連携し、生徒が安心して相談できる環境づくりに努める。	A			
人権同和教育	安心して通える学校づくりを促進する。	生徒の人権が守られる教育環境の整備に努める。	A	A	A	これまでの人権・同和教育特設授業の内容を見直し、現在の人権課題に応じた生徒の人権意識を育めるよう検討していく。
		自己肯定感や自尊感情を育み、人権意識の涵養を目指す。	B			
		特設授業だけでなく、学校の全教育活動を通して生徒の人権感覚を育む。	A			
	人権教育に関する職員研修を積極的に実施する。	人権に関する様々な情報を広報し、研修会に参加しようとする環境を整える。	A	A		教職員の校外研修の機会を損なわないよう情報提供や周知を積極的に行い、その後の研修報告会を通じて教職員の人権感覚のより一層の涵養に努めていく。
		人権教育に関する各種研修会への、職員の積極的な参加を促す。	A			
		研修成果を職員間で共有し、人権感覚の涵養に努める。	A			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・学習評価の観点の一つ「思考力・判断力・表現力等」を見取る場面を設けて、きめ細かい学習指導の充実と生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。
・生徒一人一人が存在感をもち、共感的な人間関係を育むことができるよう、コロナ禍において中止してきた学校行事（運動会等）の実施について検討する。
・各教職員の適切な役割分担と連携によりチームとしての機能を高め、いじめの防止や早期発見、生徒一人一人と向き合うことのできる体制の整備に努める。
・特別な教育的支援を必要とする生徒に係る外部関係機関との連携・協力を進めるとともに、全教職員で指導・支援に関する情報共有を図る取組を推進する。
・主体的な進路選択と社会的・職業的自立を促すため、日々の授業における「主体的に学習に取り組む態度」を促す評価基準表（ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ）の教室掲示を図る。

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	観点別学習状況の評価を行うには、生徒が主体的に学習に取り組む場面を設定していく必要がある。授業時数の確保に努めてほしい。
A	市民センターの文化的行事への参加や地域振興に係るボランティア活動などを通して、生徒の豊かな心や自尊感情を育む取組を進めている。
A	産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化が進展する中、生徒の勤労観・職業観や社会人としての基礎的・基本的な資質を育成する取組を進めている。
A	１人１台学習者用タブレット型端末の整備状況に応じ、外部人材を活用しながら、ＩＣＴに係る実践的な知識やスキルの向上を図っている。
A	資格・検定の取得は自らの適正を知り、進路選択に資するだけでなく、日常の学習に対する意欲を高めることになる。今後も積極的に取り組んでもらいたい。
B	生徒が抱える現代的な健康課題は多岐にわたっている。文部科学省が作成する参考資料や補助資料等を活用しながらより効果的な保健指導に努めてもらいたい。
A	PDCAサイクルに基づく取組の検討・見直しを図ることは評価できる。今後も教職員の共通理解を図り、組織的・計画的に人権教育に取り組んで欲しい。

評価項目以外のものに関する意見

教職員同士、生徒同士、教職員と生徒の間の人間関係や全体としての雰囲気などは学校における教育活動の基盤をなすものである。多様な実態の生徒が在籍する中、「自分と他の人の大切さが認められる環境」の維持・向上に努めて欲しい。